

# 2 浅川地区 の名所旧跡 ちよつこら旅

①皇大神宮神社

創建は比較的新しく慶応元年（1865）であるが、安政5年（1858）に結成され当時最大を誇った「伊勢外宮永代太々講」の講中170名の名が刻まれた石碑があり往時をしのぶことができます。社殿の中には金谷川隨一と思われる両皇大神宮と刻された大きな石碑が収められています。



②比丘尼石と薬師堂

巨岩が2つ並んでおり、胎内に模しての信仰もあります。岩の間に挟まるるように薬師堂があり、比丘尼がそこに住みついたことから比丘尼石の名がついたといわれています。

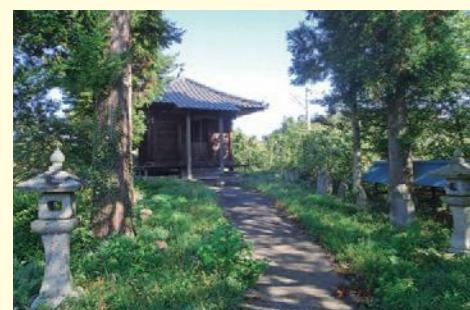
巨岩には神が宿るという「イワクラ」信仰のなごりもあります。



③淺川正觀音

平石菊地家一族の守り本尊と伝えられています。歴史は古く、正平年間(1346~1369)に九州の菊地一族が陸奥に下り、平石の地を永住の地と定めたことに由来しています。ご尊体は、一寸八分の金の仏であるとされています。

また「浅川正觀音由来記」には、元弘3年(1333)に浅草觀世音のご本靈を賜ったとあります。



④丸石公園（個人庭）

昭和の初め頃まで「武徳殿」と  
称する剣道場があり、人々が  
を習っていた場所でした。武  
を建てた神道無念流師範長尚  
翁の彰徳碑が現存しており、  
碑の前では「御前試合」も行  
っていました。現在では地元で  
判の桜の名所で、近くの小学校  
ちが遠足に訪れることもあります。



5 昆沙門

七福神の一つ、毘沙門天尊で、導きとして崇められている猿田彦信仰とのつきもあります。その昔は、財富の神で広く信仰を集め、ここからお金を借りと家が潤うという言い伝えから、祭りお金を借りて翌年感謝の気持ちをもつ返しするというしきたりがありました。在も例年旧年初寅の日に祭典が行われ、に参拝すると甘酒が振る舞われます。



6 目次

貝吹の貝とは「ほら貝」であり、敵の来襲をほら貝を吹いて知らせたことからこの名称がついたと考えられています。松川八丁目城の守りも兼ねていたらしく、山頂付近には空堀と思われる溝が掘られており、出城だった可能性もあります。また津島神社があります。



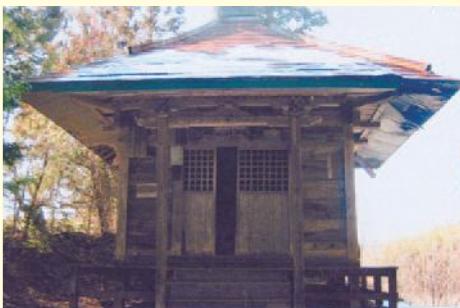
⑨富士浅間神社

通称「ごんげんさま」。創建は古く、延宝元年（1673）に駿府（静岡県）の富士浅間神社より勧請したと伝えられています。祭神は世界遺産である富士山の神様と同じく木花咲耶姫（大山津見神の娘）で、安産の神としても信仰されています。



⑧船橋十一面正觀世音

正保4年（1647）尾形若狭創建と伝えられています。観音信仰は現実社会においてすぐに理想や救いがもたらされるという現世利益にあるため即効性を求めて信仰が広まりました。十一面正観音は十一面の顔を持ち、頭頂は釈迦であり、病を除き、罪を淨め、幸福をもたらすとされています。



⑦宇佐八幡神社

御本社は大分県の宇佐八幡宮。祭神は誉田別名・息長足彦命・息長足姫命=神功皇后=応神天皇の母。勧請は慶長14年(1609)に分霊された記録が宇佐八幡宮に残されています。東北で宇佐を名乗る八幡神社はあまり見られません。

